

DERWENT-ACC-NO: 2003-520119

DERWENT-WEEK: 200349

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Anchoring method for small animal e.g. dog, involves hooking double section in middle of leash main body such that length of leash main body can be adjusted with respect to anchoring origin

PATENT-ASSIGNEE: TAKI KK[TAKIN]

PRIORITY-DATA: 2001JP-0394027 (December 26, 2001)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<u>JP 2003189752 A</u>	July 8, 2003	N/A	006	A01K 027/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP2003189752A	N/A	2001JP-0394027	December 26, 2001

INT-CL (IPC): A01K027/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2003189752A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - The method involves hooking a double section (3) in the middle of a leash main body (2), connected to a small animal, such that the length of the leash main body can be adjusted with respect to an anchoring origin in the seat of a motor vehicle. The small animal is anchored at a leash length less than the full length of a leash.

DETAILED DESCRIPTION - An INDEPENDENT CLAIM is also included for a leash.

Best Available Copy

USE - For anchoring a small animal e.g. dog, to e.g. motor vehicle seat.

ADVANTAGE - Can respond to different anchoring conditions and needs of customer.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the perspective drawing of a leash.

Leash main body 2

Double section 3

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/5

TITLE-TERMS: ANCHOR METHOD ANIMAL DOG HOOK DOUBLE SECTION
MIDDLE LEASH MAIN
BODY LENGTH LEASH MAIN BODY CAN ADJUST RESPECT
ANCHOR ORIGIN

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2003-412988

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-189752

(P2003-189752A)

(43)公開日 平成15年7月8日(2003.7.8)

(51)IntCl⁷

A 0 1 K 27/00

識別記号

F I

A 0 1 K 27/00

キーワード(参考)

Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願2001-394027(P2001-394027)

(22)出願日 平成13年12月26日(2001.12.26)

(71)出願人 391027114

株式会社ターキー

大阪府守口市佐太中町6丁目55番25号

(72)発明者 戸澤 政志

大阪府寝屋川市仁和寺本町2-32-4 株

式会社ターキー内

(74)代理人 100080827

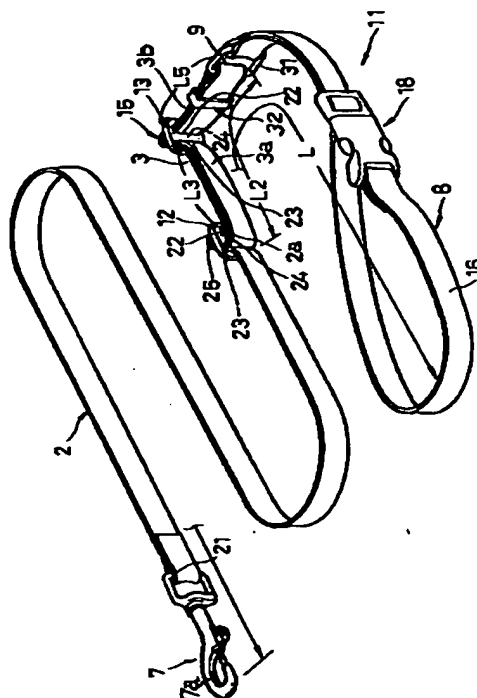
弁理士 石原 勝

(54)【発明の名称】 小動物の係留方法とそれに用いるリード

(57)【要約】

【課題】 リードによって引き回す犬などの小動物を、リードの長さによって束縛されずに必要に応じ短く係留できるようにする。

【解決手段】 小動物1に連結しているリード本体2の途中の長さ調節できる二重部3を自動車4の座席5などの係留元に引っ掛けることにより、リードの全長よりも短いリード長さで係留することにより、上記目的を達成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 小動物に連結しているリード本体の途中の長さ調節できる二重部を自動車の座席などの係留元に引っ掛けることにより、リードの全長よりも短いリード長さで係留することを特徴とする小動物の係留方法。

【請求項2】 リード本体の手元側を二つ折りした折り返し端を連結部側の途中に位置調節できる止め具にて止め付け、二つ折りによる二重部の途中を位置調節できるずれ止め具にて二重になったリード本体どうしをずれ止めたことを特徴とするリード。

【請求項3】 リード本体の二つ折りによる折り返し部とずれ止め具によるずれ止め位置との間にできる手掛け部側の輪部を別の手掛け輪部に連結具によって連結したことを特徴とするリード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は犬などの小動物の係留方法とそれに用いるリードに関するものである。

【0002】

【従来の技術】リードは一般に小動物との連結具を持ち、手元側に手を通したり手で把持する輪部やT字部などの手掛け部が設けられた紐タイプ、チエンタイプのものである。また、別に手掛け部から連結部側を巻取り具に巻き取って繰り出し長さを調節し、種々なリード長さが得られるようにしたものも実用化されている。

【0003】これらのもので小動物を係留するのに、手掛け部が輪部であるものでは、この手掛け輪部を杭や固定した係留具など、各種係留元に引っ掛けたり、あるいは樹木など手掛け輪部を引っ掛けられない係留元には手掛け輪部側で結び付けることが行なわれている。また、手掛け部がT字部であるものでは、このT字部をリードの途中に設けた所定径の連結環部に挿入して引っ掛けることで輪部を作り、この輪部を上記のように杭や固定した係留具などの係留元に引っ掛けたり、樹木に巻き付けた後に輪部を作るなどしている。

【0004】また、別に、リードの手掛け部を着脱できる連結具にて連結する連結具をリードの手元側端部とこれに近い途中とに設けて、連結具の連結により輪部を作ったり、連結具の連結を解除して輪部を解いたりできるものがあり、引っ掛け方は勿論、巻き付け方式でも容易に係留できる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところで、犬などを家庭の庭に係留し、あるいは散歩や行楽にいった地で監視のもとに係留したりするのに、愛玩精神の高まりの中、犬の行動範囲をできるだけ制限しない観点から標準の長さのリードでは短すぎる指摘もされてきた。

【0006】一方、犬などを自動車に乗せるのに、動き回って運転の邪魔になるような危険や犬が自由に動き回って開いた窓から脱落するような危険を回避するには、

運転中の一時だけ犬などから極く近い位置に係留して犬などの行動範囲を制限することが望まれる。また、公園など幼児や子供が直ぐ近くに居たり、来たりし、あるいは買い物など飼い主が現場を少しの間でも離れたりして、万一の危険が予想される場合にも極く近い位置にて係留し、犬などの行動範囲を限られた間だけ制限することが望まれる。

【0007】しかし、上記従来のものでは多くの場合、リードの標準長さが係留長さになってしまうので問題である。

【0008】また、手掛けT字部を持ったチエンで連結環をチエンの長手方向数箇所に設けたものも提案されており、これによれば、手掛けT字部をどの連結環に挿入して引っ掛けるかで、これによってできる輪部による二重部の長さが調節されるので、通常リード長さよりも短い係留長さを選択することができる。

【0009】しかし、通常リード長さの最大1/2程度にしかならないし、通常リード長さの1/2に近づく程輪部の長さが長くなって、係留元との引っ掛かりや巻き付けによる繋ぎ状態に遊びができる。このため、犬などが係留長さよりも係留元側に近づくほどチエンの弛みが大きくなり、係留元への引っ掛かりが緩んで外れやすくなったり、手掛けT字部の連結環との引っかかりが緩んで外れやすくなったりするので、不用意な外力の働きなども含め万一の危険を回避できないことがあるのは否定し切れない。

【0010】本発明の目的は、リードによって引き回す犬などの小動物を、リードの長さに束縛されずに必要に応じ短く係留できる係留方法とこれに用いるリードを提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記のような目的を達成するために、本発明の係留方法は、小動物に連結しているリード本体の途中の長さ調節できる二重部を自動車の座席などの係留元に引っ掛けることにより、リード本体の全長よりも短いリード長さで係留することを特徴とするものである。

【0012】このような構成では、二重部は通常最小長さとしておくことにより、これを途中に有したリード本体の長さを最大にしておけるので、この状態を通常のリード長さとし、標準長さに見合うなど十分な長さのリードを用いながら、必要に応じ途中の二重部を係留元の大きさに見合う周長に調節して各種の係留元に対し過不足ない遊び状態にて容易にかつ外れ難く引っ掛けまたは巻きつけて係留でき、併せ、二重部をリード本体のどの位置に設けておくかの選択によって犬などとの連結部から手掛け部までのどの途中位置をも二重部による係留部とした各種仕様の製品を提供することができ、顧客側の各種係留条件やニーズにも対応することができる。

【0013】また、本発明のリードは、リード本体の手

元側を二つ折りした折り返し端を連結部側の途中に位置調節できる止め具にて止め付け、二つ折りによる二重部の途中を位置調節できるずれ止め具にて二重になったリード本体どうしをずれ止めたことを特徴とするものである。

【0014】このような構成では、リード本体の二つ折りによってできる二重部の位置と長さが、二つ折りによる折り返し端がリード本体の連結部から折り返し部に最接近する間の変位範囲で調節することができ、二重部をどの範囲に作って係留するかで係留長さを1本のリード本体において選択し使用することができる。また、折り返し端をリード本体のどの位置に止め付けるかによる二重部の長さの変化に対しては、二重部がその途中をずれ止め具により二重になっているリード本体どうしをずれ止めているずれ止め位置を境に二分されることから、ずれ止め具をどの個所で働かせるかの位置調節によって、ずれ止め位置と、二重部の折り返し端側またはおおよび折り返し部側との間の長さを自由に調節することができるので、前記二分されるどちらの分割二重部をも係留元の大きさに合わせて過不足ない遊び状態にて容易にか

つ外れにくく引っ掛け係留することができ、折り返し端側の分割二重部を用いるか折り返し部側の分割二重部を用いるかによっても、リード長さを短くするか、長くするかを選択ができる。

【0015】上記に加え、さらに、リード本体の二つ折りによる折り返し部とずれ止め具によるずれ止め位置との間にできる手掛け部側の輪部である分割二重部を別の手掛け輪部に連結具によって連結した構成では、折り返し部側の分割二重部は手掛け輪部となりえるものの、ずれ止め具が長さ調節の邪魔にならないストレートなものになるなどの制限を受けるのに対し、この折り返し部側の分割二重部に連結した手掛け輪部はそのような制限から開放されるので、輪部にしたりこれを解いたりする連結具を持つなどその態様が自由になり、材料の選択や構造上にて滑りにくくしたり手を掛けやすくしたりすることなども含めより使いやすしいものとする事ができる。

【0016】本発明のそれ以上の目的および特徴は、以下の詳細な説明および図面によって明らかになる。本発明の各特徴は、それ単独で、あるいは可能な限りにおいて種々な組合せて複合して採用することができる。

【0017】

【実施例】以下、本発明の小動物の係留方法とそれを用いるリードの実施例について図を参照しながら説明し、本発明の理解に供する。

【0018】本実施例は、犬を係留したり引き回したりするのに用いるリードの場合の一例である。しかし、本発明はこれに限られることはなく、他の小動物に適用してもよい。要するに、以下の説明は本発明の代表的な具体例を示すもので、特許請求の範囲の記載を狭めるものではない。

【0019】本実施例の係留方法は、図1～図3に示すリードを参照して、小動物である図3に示すように犬1に連結しているリード本体2の途中の長さ調節できる二重部3を自動車4の座席5などの係留元に例えば図3に示すように引っ掛けることにより、図1に示すリードの全長よりも短い図2、図3に示すようなリード長さ1で係留するようにする。図1に示すように二重部3は通常最小長さとしておくことにより、これを途中に有したリード本体2の長さを最大にしておく。従って、この状態を通常のリード長さとし、標準長さに見合うなど十分な長さのリード本体2を犬1の引き回しや係留にそのまま用いられる。これに併せ、必要に応じ途中の二重部3を前記座席5の係留元としての例えば図3に示すヘッドレスト6の大きさに見合う周長に調節して、杭や柵、樹木など各種の係留元に対し過不足ない遊び状態にて容易にかつ外れ難く引っ掛けまたは巻きつけて係留できる。また、二重部3をリード本体2のどの位置に設けておくかの選択によって、つまり、位置調節構造を利用しない状態においても、図1～図3に示すような犬1などとの連結部7から手掛け部8までのどの途中位置をも二重部3による係留部とした各種仕様の製品を提供することができ、顧客側の各種係留条件やニーズにも対応することができる。このような係留方法は基本的には、ベルトタイプ、丸紐タイプ、などその材料の別なく適用することができるし、長さ調節できる二重部はどのような構造およびどのような止め具を用いて形成されても、それらの具体的な違いに関係なく本発明の係留方法は実現する。

【0020】このような係留方法を実現する図1～図3に示す1つの実施例について説明する。本実施例はベルトタイプのリード本体2を採用した場合の一例であるが、これに限られないのは既述の通りである。リード本体2の手元側11を二つ折りした折り返し端2aを連結部7側の途中に位置調節できる止め具12にて止め付け、二つ折りによる二重部3の途中を位置調節できるずれ止め具13にて二重になったリード本体2どうしをずれ止めてある。

【0021】このようにすると、リード本体2の二つ折りによってできる二重部3の位置と長さが、二つ折りによる折り返し端2aがリード本体2の連結部7の位置から折り返し部9に最接近する間の変位範囲で調節することができる。例えば、止め具12の位置をリード本体2上で位置調節してそれが止めている折り返し端2aを図1の位置から図2に示すように連結部7側に寄せることによって、二重部3はそれに伴い連結部7側に移動する。しかし、これと同時に、二重部3の長さ12が図1の状態から図2の状態に長くなる。

【0022】ここに、二重部3をどの範囲に作って図3に示す例のように係留するかで、係留のためのリード長さ1、ないしは係留部長さ13を差し引いた係留部か

ら連結部7ないしは犬1までの、実際の係留長さL4を、1本のリード本体2において種々に選択し使用することができる。

【0023】また、折り返し端2aをリード本体2のどの位置に止め付けるかによる前記二重部3の長さL2の変化に対しては、二重部3がその途中をずれ止め具13により二重になっているリード本体2どうしをずれ止めているずれ止め位置15を境に図1～図3に示すように連結部7側の分割二重部3aと折り返し部9側の分割二重部3bとに二分されることから、ずれ止め具13を二重部3の長さL2範囲のどの個所で働かせるかの位置調節によって、ずれ止め位置15と、二重部3の折り返し端2a側またはおおよそ折り返し部9側との間の各長さ、つまり、各分割二重部3a、3bの長さL3、L5を自由に調節することができる。

【0024】ここに、前記二分される分割二重部3a、3bのどちらをも係留元の大きさに合わせて過不足ない遊び状態にて容易にかつ外れにくく引っ掛け係留することができる。同時に、折り返し端2a側の分割二重部3aを用いるか折り返し部9側の分割二重部3bを用いるかによっても、係留時のリード長さL1を短くするか、長くするかを選択ができる。

【0025】なお、本発明の基本的なところでは、折り返し部9側の分割二重部3bは手掛け輪部となり得る。しかし、リード本体2がずれ止め具13による長さ調節の際に引っ掛かったりするなどの邪魔にならない、従って、ストレートなものになるなどの制限を受ける。これに対応するのに、図1～図3に示すように、リード本体2の二つ折りによる折り返し部9とずれ止め具13によるずれ止め位置15との間にできる手掛け部側の輪部である分割二重部3bを別の手掛け輪部16に連結具によって連結したものとすることができる。

【0026】これにより、この分割二重部3bに連結した手掛け輪部16はそのような制限から開放されるので、輪部にしたりこれを解いたりする図に示すような連結具18を持つなどその態様が自由になり、材料の選択や構造上にて滑りにくくしたり手を掛けやすくしたりすることなども含めより使いやすしいものとする事ができる。

【0027】さらに具体的には、リード本体2およびそれに連結した手掛け輪部16は共に樹脂製の綱紐よりなる平ベルトであり、連結部7には連結具としていわゆるナス環7aを採用し、着着などで止着した2つ折り部による袋部21に通され保持されている。しかし、これらに限られることはない。止め具12およびずれ止め具13はいずれも、樹脂製で2つの通し穴22、23が中柱24を境に設けられた形状を有している。もっとも、金属製のものでもよい。

【0028】止め具12は図1、2に示すように、中柱24をリード本体2の連結具7側から折り返し部9を経

て延びた折り返し端2aの着着などで止着した2つ折り部による袋部25に通して折り返し端2aと連結される一方、リード本体2の途中が前記袋部25の外回りを通る経路で止め具12の一方の通し穴22に一面側から他面側に通し、他方の通し穴23に前記他面側から前記一面側に通されることによって、止め具12がリード本体2のどの位置にも移動できるが、リード本体2を止め具12との間に遊びがないまでに展張されたときの曲り形状によってどの移動位置にも安定に静止し、折り返し端をそこに連結した状態とすることができる。そこで、止め具12はリード本体2を止め具12から引き伸ばすようにして展張状態を緩めていき、止め具12との間に遊びを形成することで曲がりによる止め具12との引っ掛かりを解き、リード本体2に対して移動できる状態となり、二重部3の位置調節ができる。リード本体2が丸紐の場合、袋部25に対応する部分にリード本体2は重ならないが、同じ作用は得られる。

【0029】ずれ止め具13は図1、図2に示すように、二重部3が重なったまま一方の通し穴22に一面側から他面側に通した後、他方の通し穴23に前記他面側から前記一面側に通されて、二重部3に対し移動できるが、中柱24との間に遊びがないまで展張された時の曲りによって、二重部3をなしているリード本体2どうしが互いに位置ずれするのを防止し、互いを一体に結束させた状態になり、両側にある分割二重部3a、3bの長さを固定した状態にすることができる。そこで、ずれ止め具13は二重部3をずれ止め具12から引き伸ばすようにして展張状態を緩めていき、ずれ止め具13との間に遊びを形成することでずれ止め具13との引っ掛かりを解き、二重部3に対して移動できる状態となり、ずれ止め具13の両側にできている分割二重部3a、3bの長さの割合を自由に調節することができる。これによって、分割二重部3a、3bの係留に用いる側を係留元である前記ヘッドレスト6に引っ掛けられる長さにしたリ、必要なら引っ掛けた後にヘッドレスト6よりも小さな昇降支持部6aにフィットする長さなどに絞って抜けやすくしたりすることもできる。リード本体2が丸紐である場合でも、すべり止め具13は基本的に同様な作用を発揮する。しかし、リード本体2が重なり合うことによってずり止め効果が高くなることはないので、上記止め具12を含めて隣り合うリード本体2どうし、あるいはリード本体2および折り返し端2aどうしを異なった通し穴に通して対応することもできる。

【0030】手掛け輪部16は金属の連結環31によって前記リード本体2の折り返し部9に連結してある。しかし、連結具や連結の方法は自由であり、着着や縫い合わせやこれから開発されるものを含めどのようにしてもよい。

【0031】本実施例では、折り返し部9を含む分割二重部3bを手掛け部8として使用しない例であるので、

10

20

30

40

50

折り返し部9の近傍に金属製の結束環32を嵌め合わせ、膨らむのを阻止し扁平な状態に保つと同時に、手掛り部8の連結位置が折り返し部9からずれないようにしている。

【0032】手掛り輪部16の連結具18は図1、図2に示すように、係合フック18a1を持ったプラグ18aと、挿入されるプラグ18aの係合フック18a1が弾性的に嵌まり合いそれを抜け止めした連結状態になるプラグ受18bとの組み合わせよりなる樹脂製の尾錠を採用している。この連結状態では手掛り輪部16となり、犬1などの引き回しや引っ掛け方式での係留ができ、係合フック18a1をそれが弾性的に係合し外部に臨んでいるプラグ受18bの窓18b1にて外部から押し込み係合を外すことで連結を解除することができる。この連結解除によって手掛り輪部16は開放状態になって樹木などに巻き付けることができ、巻き付け後に連結すると係留状態になる。

【0033】もっとも、この連結にはこれから開発されるものも含めどのような連結具や連結方法を採用してもよく、図4に示すようなナス環41aと連結環41bとからなる連結具41を用いることもできる。

【0034】また、手掛り輪部16は図5に示すように、溶着や着着によって連結したままになるものでもよい。

【0035】

【発明の効果】本発明によれば、二重部は通常最小長さとしておくことにより、これを途中に有したリード本体の長さを最大にしておけるので、この状態を通常のリード長さとし、標準長さに見合うなど十分な長さのリードを用いながら、必要に応じ途中の二重部を係留元の大きさに見合う周長に調節して各種の係留元に対し過不足ない遊び状態にて容易にかつ外れ難く引っ掛けまたは巻きつけて係留でき、併せ、二重部をリードのどの位置に設

けておくかの選択によって犬などの連結部から手掛り部までのどの途中位置をも二重部による係留部とした各種仕様の製品を提供することができ、顧客側の各種係留条件やニーズにも対応することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の1つの実施例のリードを最大リード長さにした状態で示す斜視図である。

【図2】図1のリードをリード長さを短くした状態で示す斜視図である。

10 【図3】図1のリードによる途中位置の二重部を利用した犬の車の座席への係留状態を示す斜視図である。

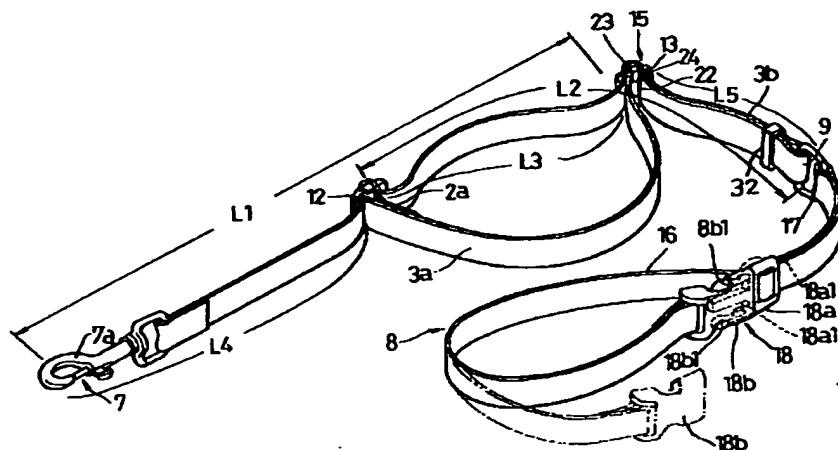
【図4】別の実施例を示す手掛り部の斜視図である。

【図5】他の実施例を示す手掛り部の斜視図である。

【符号の説明】

- 1 犬
- 2 リード本体
- 3 二重部
- 3a、3b 分割二重部
- 4 自動車
- 5 座席
- 6 ヘッドレスト
- 7 連結部
- 8 手掛り部
- 9 折り返し部
- 11 手元側
- 12 止め具
- 13 ずれ止め具
- 15 ずれ止め位置
- 16 手掛り輪部
- 18、31 連結具
- L、L1 リード長さ
- L4 係留長さ

【図2】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.